

みなさまのチカラでぱっぷすを支えてください



いつもぱっぷすの活動を応援していただきありがとうございます。

ぱっぷすが、性的搾取に巻き込まれた10,553人以上の相談者のサポートを継続できたのは、多くのみなさまが「ご支援」という形でその思いを託していただいたからです。みなさまのご支援が、性的搾取の問題を解決する大きな力となっています。

相談支援を今後も維持し続けるためには、みなさまのご支援があってこそです。

ぱっぷす存続のために、以下の3つの方法で寄付をお願いしております。どうかご検討ください。



毎月のご支援でできること

毎月5,000円で



デジタル性暴力被害の
相談支援窓口の維持
1日できます

毎月2,000円で



夜間の路上アウトリーチが
1回実施できます

毎月1,000円で



ひつじカフェ・ハウスで
1日分の飲食を提供できます

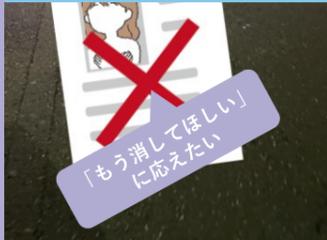
1回のご寄付でできること

20,000円のご寄付で



ひつじハウス1泊を
運営できます

10,000円のご寄付で



被害画像40件
削除要請ができます。

ご寄付は
こちら



▶ 今すぐ寄付する
<https://paps.jp/supporter>



銀行口座

特定非営利活動法人ぱっぷす
(トクヒ) パップス

銀行名 ゆうちょ銀行 口座種別 当座

店番 019 番号 0515783

振替口座

特定非営利活動法人ぱっぷす

記号番号 00150-2-515783

郵便局備え付けの「振込取り扱い票」
をご活用ください

クレジットカード

▼ 下記URLから決済ください
<https://www.paps.jp/supporter>

ひつじカフェ・ひつじハウスで現在必要な食品・物品はAmazonほしいものリストに
登録しております。こちらからご覧ください。<https://amzn.asia/bsS0Yz5>



特定非営利活動法人ぱっぷす
Organization for Pornography and Sexual exploitation Survivors : PAPS

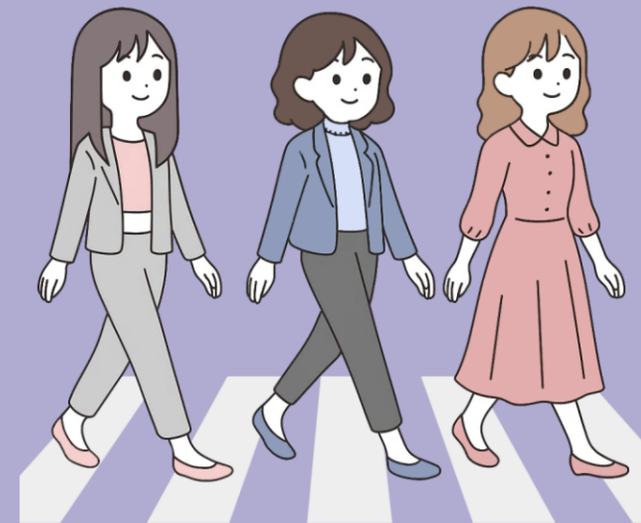
〒113-0023 東京都文京区向丘2-27-6-2F TEL:050-3186-4119 FAX:03-6304-2564
HP: <https://paps.jp> MAIL: paps@paps-jp.org

本活動報告書の一部または全部を無断で転載・複製・配布することを禁じます。

ANNUAL REPORT

2024-2025

ぱっぷすを応援してくださっているみなさまへ
感謝を込めて。



特定非営利活動法人ぱっぷす

Organization for Pornography And Sexual Exploitation Survivors: PAPS

性的搾取にわたしたちの世代で 終止符を打つプロジェクト

性的搾取とは？

以下の3つの性的同意が侵害されコントロールが奪われた状態を性的搾取といいます。



性的同意は、性行為の撮影や、撮影された映像を第三者に見られることも含まれます。性的同意が奪われて拡散したビデオには必ず被害が存在します。同意のない性行為の撮影や撮影された映像を第三者に見せることは犯罪です。

性的搾取に対処するための戦略基盤

特に女性と子どもの人身取引（性的搾取）に対処するための戦略基盤として「5つのP」と「3つのR」があります。

- | | | | |
|--------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 3つのP | | 3つのR | |
| ・ 保護 (Protection) | ・ 救済 (Redress) | ・ 復旧 (Rehabilitation) | ・ 再統合 (Reintegration) |
| ・ 訴追 (Prosecution) | ・ 復旧 (Rehabilitation) | ・ 再統合 (Reintegration) | |
| ・ 処罰 (Punishment) | ・ 再統合 (Reintegration) | | |
| ・ 予防 (Prevention) | | | |
| ・ 促進 (Promotion) | | | |
| (国際協力の促進) | | | |

国連特別報告者ジョイ・ヌゴジ・エセイロ氏 2009年7月12日より

ぱっぷすの活動について

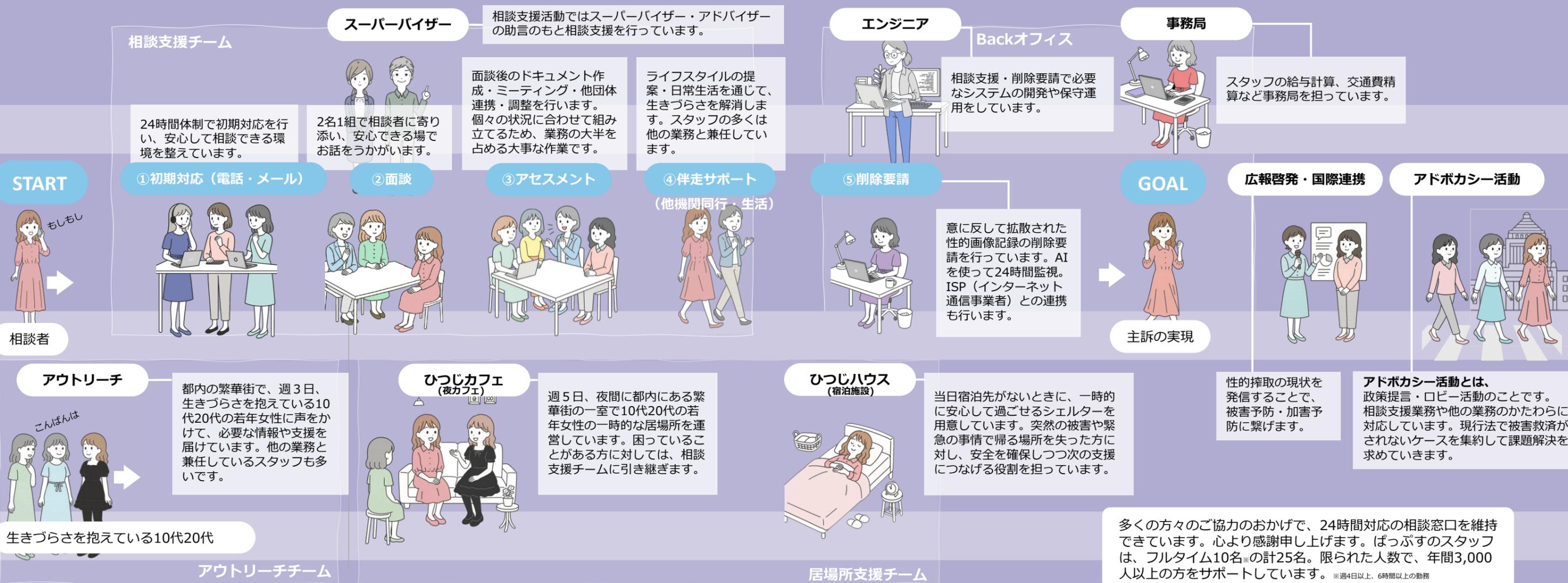


ぱっぷすは、性的搾取の被害にあった当事者に寄り添い、相談者が望む解決と一緒に実現してきました。

特に、デジタル性暴力に巻き込まれた方への支援では、スタッフが相談者に代わって拡散された画像の削除要請を行うことができることが大きな強みです。

また、性的搾取の手口は日々巧妙化しており、現行の法制度では対応が追いついていません。そのため、私たちは法改正や制度改善を求めるアドボカシー活動（政策提言・ロビー活動）にも取り組んでいます。

3層構造で相談者をサポートします



新規相談者数

3,528人
前年度の1.8倍



新規の相談件数は 3,528人 にのぼり、前年度の 1.8倍 に急増しました。特に、**金銭セクストーション（性的画像を使った脅迫と金銭要求）** に関する相談が増えており、相談者の多くは男性です。また、中高生や小学生からの声も寄せられており、「拡散に加担してしまった」と悩む未成年や保護者からの相談も目立ちました。さらに、**ディープフェイク**や**盗撮被害** への不安も広がっており、相談内容は多様化・深刻化しています。

AV出演被害では個人撮影の増加や短期販売により、被害が早期に表面化しています。AV出演被害防止救済法の逮捕事案も複数件ありました。証拠から、被害者が150人いるケース事案もありました。

こうした複雑で多様な相談に対応するため、警察や他団体と連携し、法律や削除システムを活用しながら支援を行いましたが、人員不足が大きな課題です。

削除要請件数

15,741件
削除率62%



削除要請チームは **15,741件** の性的画像・動画について削除要請を行いました。その多くは、本人の同意なく拡散された性的画像記録です。

被害者にとって、画像がインターネット上に残り続けることは、過去の出来事が「終わらない」ことを意味します。通知音が鳴るたびに胸が締めつけられ、画面の向こうで知らない誰かが私を見ているかもしれない恐怖に耐え続けなければなりません。

その切実な声に応え、私たちは **62%にあたる9,859件の削除** に成功しました。AI技術を導入したことで画像検出の精度が大幅に向上し、削除成功率も高まっています。

一方で、削除に応じない悪質なサイトが多数存在し、拡散のスピードや匿名性も相まって、被害者の苦しみを長引かせています。削除要請はまさに「終わらない闘い」であり、今なお続いています。

政策提言活動

10件以上
法改正・条例施行



恋愛感情を利用して高額な飲食代を請求するホストクラブ商法などについて政策提言を行い、風営法（風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律）改正につながりました。現場の声を社会に届けるべく、生成AIによる児童ポルノ被害、金銭セクストーション、裸ローンといった新たな性被害に対して法整備を訴えました。

また、AV出演被害防止・救済法の後退を防ぎ、売春防止法の見直しや買春規制、SNS広告の規制など、多岐にわたる課題に取り組みました。

アドトラック（トラックの荷台スペースに大きな広告を表示し街中を走る広告宣伝車）についての規制強化を東京都議会に訴え、**2024年6月の屋外広告物条例施行規則の改正**につながりました。

この活動は、単に法制度を変えるだけでなく、被害者の声が「社会を変える力」になることを示しています。

路上アウトリーチ

3,024人
年間106回実施



アウトリーチチームは東京都内の繁華街で年間106回、10代20代の若年女性、延べ3,024人に声をかける活動を行いました。特に10代前半の方が多く見受けられました。繰り返し声をかける中で、ぱっぷすとつながることができた方もいました。「死にたい」「生きているのが疲れた」と語る方の中には、性的搾取に巻き込まれているケースもあり、早期に関わることで被害を最小化できた事例もありました。街頭での何気ない声かけは、信頼関係の始まりとなります。「また会えたね」「今日は大丈夫？」と重ねる対話が、彼女たちが必要とするぱっぷすの支援につながるきっかけとなっています。

ひつじカフェ利用

2,246人
10代利用者増加



ひつじカフェ（夜カフェ）には、のべ2,246人が訪れました。10代20代の若年女性を中心に利用しており、10代20代の若年女性の取り巻く環境に変化があると、1日の利用者数は20人前後に増加しました。ひつじカフェは「信頼できる大人がいる」「安心して気持ちを話せる」居場所として機能しています。なかでも印象的だったのは、18歳未満の方が妊娠の不安を抱え来所したケースです。孤立や不安を語ることで、必要な支援へとつながるきっかけとなりました。季節のイベントや講座も開催し、笑顔や交流の場を届けています。

ひつじハウス利用

556泊
短期36人／長期9人



ひつじハウス（シェルター）には短期36人・長期9人の計45人、のべ556泊の利用がありました。行き場を失った若年女性にとって、安心して眠れる場所は命をつなぐ拠点です。利用者はアウトリーチやひつじカフェからつながり、他団体から紹介された方など多様で、数日の休養から2カ月近い長期滞在まで状況に応じた支援を行いました。宿泊中は相談員との面談を通じて次の居場所を探したり、体調を整えたりする時間を持ち、生活再建への一歩を踏み出しています。

これらの数字の一つひとつは、ご寄付・ご支援いただきましたみなさまのお力があってこそ生まれた成果です。相談者の背後には、家族や友人もいます。性的画像の削除に成功した画像の背後には、未来を取り戻した10代20代の笑顔があります。

みなさまのご支援によって、確実に命を救い、社会を変える力となりました。これからも、みなさまと一緒に性的搾取を終わらせる活動を続けます。



※カフェ利用者・宿泊者はのべ数です。

デジタル性暴力

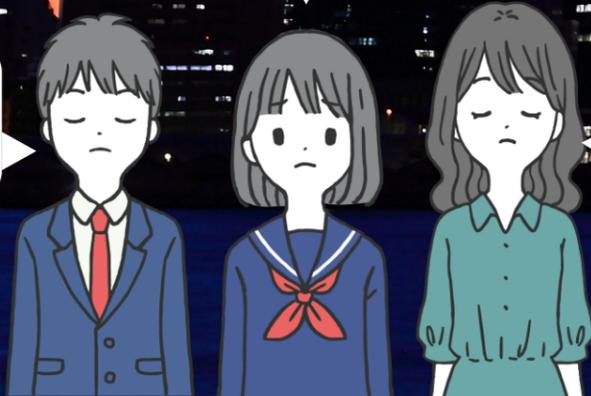
相談窓口には、SNSやアプリを通じて性的搾取や脅迫を受けた方から、毎日のように切実な声が寄せられています。特に多いのは、「親に知られたくない」という気持ちを巧みに利用され、脅迫が長期化してしまうケースです。

3,528人の
新規相談
前年度の
1.8倍

お前が送ったんだろって言われて、誰も信じてくれない気がした。

お金を払えば終わると思ったのに、次から次へと要求がきた。

相手の顔も名前もわからない。どうやったら終わるのかわからなかった。



セクストーション

ぱっぷすには1,822件のセクストーション（性的脅迫）被害相談が寄せられました。多くはSNSやマッチングアプリで知り合った相手とのビデオ通話をきっかけに、裸や性的行為を録画され「拡散する」と脅され、金銭や追加の画像を要求されるものです。被害者の8~9割は若年男性で「私が悪かった」と思い込み相談できずに孤立するケースも少なくありません。中には小学生の自殺未遂で発覚した例もありました。セクストーションをはじめ、デジタル性暴力被害は命に直結する深刻な問題です。

新しい加害の形態

- 1 SNSやマッチングアプリを通じた裸ローン被害の相談が寄せられています。これは「審査なし・即日融資」と接近し、身分証や裸の写真・動画を担保にお金を貸すという搾取です。返済後も「追加の画像を送れ」「SNSで拡散する」と脅され、実際に販売された例もあります。
- 2 高収入バイトとして「裸の写真や映像を送ればお金をあげる」と誘われ応じたところ、金銭は支払われず、自慰行為の映像を送らないとSNS上でさらすと脅されるケースも増加傾向にあります。いずれも10代後半から20代前半の若者が多く、孤立や経済的困難の中で追い込まれています。現行法では十分な救済が難しい現状です。ぱっぷすでは、温かいご寄付によって、こうした新たな性暴力を社会に可視化し、包括的な法整備を訴えることができている。

ディープフェイク被害

本人の顔を無断でポルノ映像に合成されるディープフェイク被害の相談も寄せられています。

児童でも容易に生成でき、学校内で拡散され「消してほしい」という切実な声が届いています。被害者は「知らない誰かに身体を奪われる」恐怖に苦しみますが、現行法では本人との同一性が証明できなければ救済が難しく、多くが放置されています。ぱっぷすはCSAM（児童虐待物）のワーキンググループに参画し、被害救済の必要性を訴え続けています。

AV出演被害

AV出演被害の相談が多く寄せられました。大学生や専門学校生がスカウトされ出演に至る従来の手口のほか、近年は性産業に従事していた10代20代の若年女性とその延長で出演する形や、個人撮影によるAV出演被害が増加しています。特に販売までの期間が極端に短く、すぐに身バレし相談に至る例が目立ちました。

2022年に施行された「AV出演被害防止・救済法」により、契約後でも取り消すことができる権利が守られています。業界からの反発や規制緩和の働きかけもあり、制度後退の危機に直面しています。

ぱっぷすは相談者の声を社会に届け、この法律を守り育てる活動を続けています。

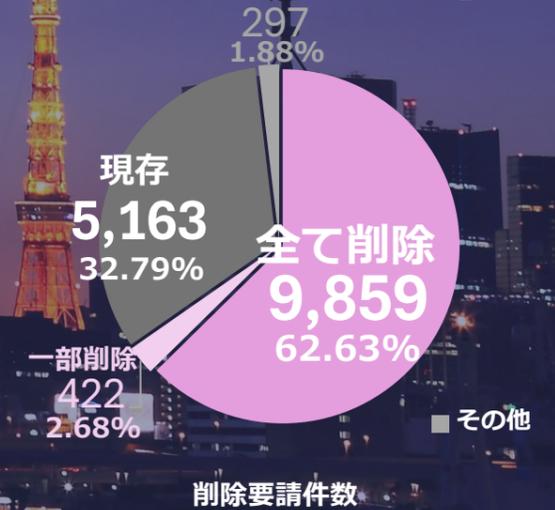
削除要請

「見られ続ける苦しみ」を終わらせるために

15,741件
削除要請
削除率
62%

2024年度、ぱっぷすは15,741件の性的画像・動画について削除要請を行いました。その多くは、金銭セクストーションやディープフェイクなど、同意なく拡散されたものです。被害者にとって、画像がインターネット上に残り続けることは、過去の出来事が「終わらない」ことを意味します。通知音が鳴るたびに胸が締め付けられ、画面の向こうで知らない誰かが私を見ている恐怖に耐え続けなければなりません。

削除要請は単なる技術的な作業ではありません。被害者の心と生活を取り戻すための、第一歩です。私たちは国内外のプラットフォーム運営会社やプロバイダーに働きかけ、一件一件、確実に削除が実行されるよう粘り強く交渉しています。



AIによる発見と削除の加速



GPUとは **Graphics Processing Unit (グラフィックス処理装置)** の略です。もともとはコンピュータの画面描画や3Dグラフィックス処理を専門に行う部品として発展しました。近年では、AI（人工知能）やディープラーニングなど、大規模計算の分野でも利用されています。ぱっぷすでは民生品のGPUを活用しています。

ぱっぷすでは、増加する相談に効率的に対応するため、AI技術を活用した独自の削除要請システムを運用しています。その中核となるのが、顔認識に特化したAIモデル「FaceNet512」です。

「FaceNet512」は顔の特徴を512次元の数値に変換し「顔の指紋」として高精度に識別します。これにより、SNSやアダルト動画サイトを24時間365日巡回し、相談者の画像が投稿されていないかを監視しています。AIで発見したデータはスタッフが確認し、国内外のプラットフォームやプロバイダーに削除を要請しています。

現在、GPU(AI)サーバー2台(RTX3090×3、RTX3080×1)、クローラー1台の計3台稼働し、計2,200万枚以上の特徴ベクトル（データの特徴を数値で表現し、機械がデータを理解しやすくしたもの）を蓄積し、相談者の画像を想像以上の精度で検出できるようになりました。今後は、拡散状況がわからない相談者にもこのサービスを広げていく予定です。

性的な写真を撮られたことへの恐怖とは？

一度でも性的な写真を撮られてしまったら、その事実だけで強い恐怖にとらわれます。動画が拡散していないか、誰かに見られていないかという不安が頭から離れず、SNSや検索サイトを繰り返し確認する方は少なくありません。「もしかしたら出回っているのでは」と思うたびに探さずにはいられず、結果として夜通しSNSで探し続け、疲労困憊のまま寝落ちしてしまうこともあります。これは単なる不安ではなく、強迫観念が伴います。こうした心理的負担は生活全般に影響し、勉強や仕事、人間関係にも支障を来します。性的画像の被害は、身体的な暴力だけでなく、日常生活に支障を来す深刻な心の被害を伴うのです。

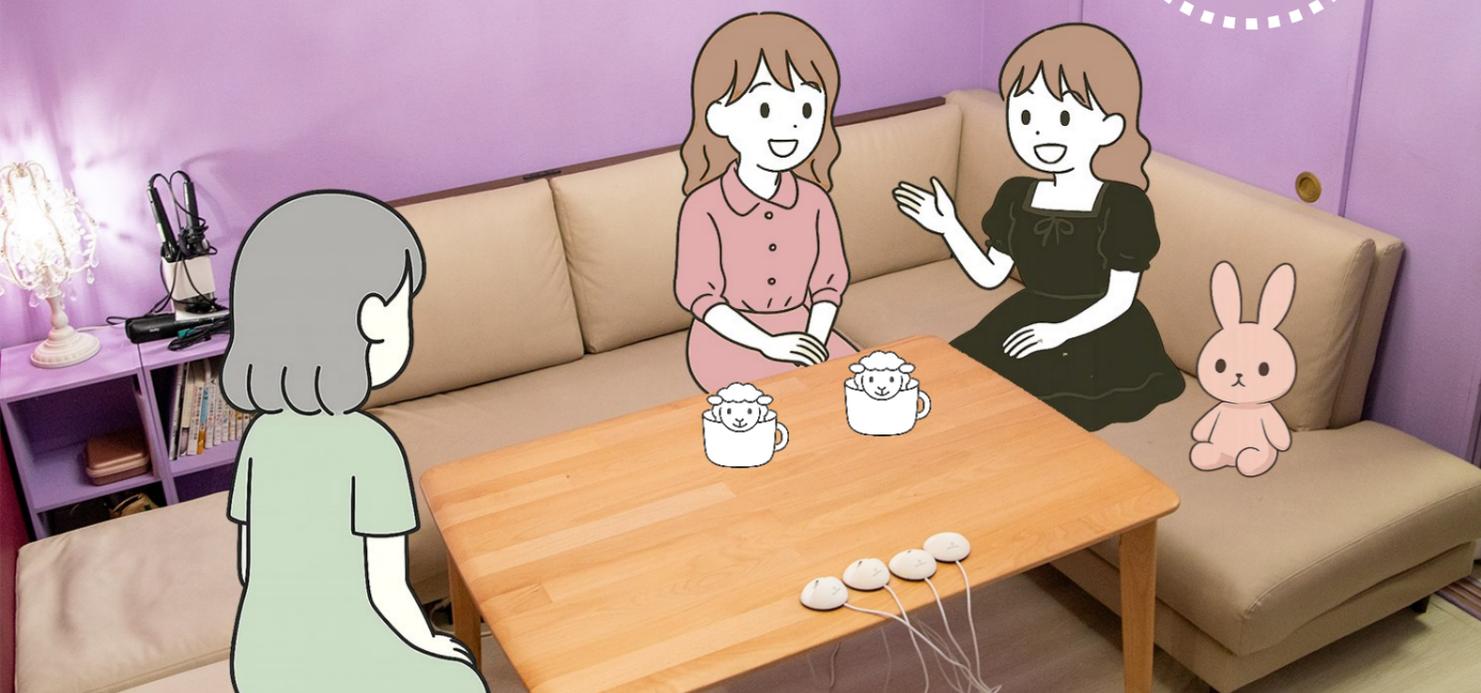
1件の削除が、被害者の人生を前に進めます。この活動はご寄付で支えられています。



ひつじカフェ

一緒に時間を過ごすことが次の一歩に

2,246人
利用
10代前半の
利用者増加



ひつじカフェについて

ぱっぶすの夜の居場所「ひつじカフェ」には延べ2,246人の10代20代の若年女性が訪れました。

中高生から20代前半が中心で、孤立や不安を抱えながら「安心して話せる場所」を求めています。なかには18歳未満で妊娠の不安を抱えて来所した理由もあり、深刻な現実が浮き彫りとなりました。ここでは「死にたい」と語る利用者や依存・自傷に悩む利用者も多く、ただ居場所に来て安心することが心の支えになっています。

ひつじカフェをきっかけに医療につながったり、ひつじハウスの宿泊支援につながったりするケースもあります。



ひつじカフェに来られた方の靴たち
たくさんの方で満員になることも

ひつじカフェはなぜ必要なのか？

夜の繁華街で過ごす若者の多くは、家庭や学校に居場所がなく、孤立や不安を抱えています。ぱっぶすの夜カフェ「ひつじカフェ」は、そうした若者が安心して立ち寄れる数少ない居場所です。繁華街を生活拠点とする子どもや10代20代の若年女性にとって、

- ①お金がかからない場所
- ②夜に危険を感じたときの逃げ場
- ③妊娠や性感染症への相談や対応、④安心して仮眠できる場所
- ⑤相談ではなく気軽に話せる相手に会えること
- ⑥女性ならではの悩みを語ることができる

こうした要望を満たす場所はほとんどありません。ここに居られることで「性を売らなくてもすむ」状況となり彼女たちは守られています。一方で、こうした若者は「不良行為少年」として補導対象となり、地域社会から排除されがちです。若年女性の場合は行き場を失うなかで「性を売らなければ生活できない」と思い込むことさえあります。だからこそ、彼女たちの思いに寄り添い、共に時間を過ごすことが、次の一歩につながる大切な支援となっています。

風営法改正を実現！ホストクラブ商法に歯止め

ホストクラブ商法とは、10代20代の若年女性の恋愛感情や孤立感を巧みに利用し、高額な飲食代を請求し、その返済のために性を売らざるを得ない状況へ追い込む悪質な手口です。

ホストは「恋人のような関係」を装いながらマインドコントロールを行い、依存状態を作り出します。

結果として、被害者は風俗店や性の売買、海外への人身取引までつながるケースもあり、性的搾取・人身取引の入り口となっています。被害は金銭的負担だけでなく、性感染症、予期しない妊娠、精神的破綻、自死に至る深刻な事例などがあり、2023年から、アドボカシー活動を展開してきました。

国家公安委員長の答弁を皮切りに、警察庁が動き出しました。2020年以降の新型コロナ対策で度々「ホストクラブ」が取り上げられていたこともあり、ほとんどの国会議員に事前情報がインプットされていました。



松村祥史
国家公安委員長*

警察庁長官の「トクリュウ」関与言及以降、まったく見える景色が変わりました。現行法を最大限活用しても被害救済が困難であることが判明してきました。



露木康浩
警察庁長官*

※当時の職位です。

風営法改正により違法となった行為

- ウソの説明
- 勝手な注文
- 恋愛感情に乗じる
- 支払いに際して不安にさせる
- 性の売買 風俗あっせん
- スカウトバック

⚠ 無許可で営業した店舗に対する罰金の上限も200万円から3億円に引き上げられました。

被害にあわれた方からのメッセージ

これまで「自己責任」とされ、私も断れなかった、私が悪いと思っていました。今回の風営法改正では、行政や国会議員が被害者の声に耳を傾けてくださったのが印象的でした。業界は形を変えて女性をホストにしぼりつける現実があり、女の子たちは悪くなく、構造的な問題だと認識してほしいです。

成立までの時系列

- 2022 5月 衆議院厚生労働委員会にて、ぱっぶす金尻カズナによって「ホストクラブのホストにお金を吸い取られてしまってお金がない状況の方」への居場所支援等の必要性を訴える
- 6月 AV出演被害防止救済法成立。ホストクラブ問題が積み残し課題のひとつとなる
- 7月 ぱっぶす居場所支援「夜カフェ」の開始、被害実態調査開始
- 2023 6月 東京都議会にホストクラブ等の売掛金規制についてロビー開始
- 7月 他団体において「ホストクラブ売掛金禁止条例」を求める署名活動が行われる
- 9月 警視庁歌舞伎町のホストクラブに対する立ち入り検査。
- 11月 「頂き女子事件」をきっかけに、構造的な社会問題にするために、「悪質！ホストクラブ商法」と呼称して、ロビー活動を開始。国会議員と協働。
- 第212回国会において、国会質問で取り上げ、松村国家公安委員長*答弁
- 小池都知事定例会見での「ホストクラブ商法」について発言
- 警察庁・取り締まり強化の指示、延べ729店舗に立ち入り検査
- 歌舞伎町ホストクラブ約220店で業界団体設立「クリーンである」と主張
- 露木警察庁長官*歌舞伎町視察「トクリュウ」の関与について言及
- 2024 4月 ホストグループ業界団体が「売掛廃止」方針。ただし「立て替え」等の名目で継続中
- 5月 警察庁「悪質ホストクラブ対策検討会」実施 ぱっぶすもヒアリングに応じる
- 8月 ホストクラブ業界「日本ホストクラブ健全化推進協議会」設立
- 12月 警察庁「悪質ホストクラブ対策」報告書
- 2025 1月 「ホストクラブ商法」風営法改正案が提出
- 4月 風営法改正案を閣議決定 参議院で審議→全会一致で可決
- 5月 衆議院で審議→全会一致で可決→成立



ぱっぶすスタッフも
国会傍聴に行きました



成立時の様子

アウトリーチ

動かなければ届かない声がある

3,024人の
声かけ
年間106回
実施



路上アウトリーチ

2024年度、ぱっぷすは東京都内の繁華街で年間106回、延べ3,024人に声をかけました。中には「死にたい」「生きるのが疲れた」と語る10代半ばの女性も多く、性的搾取の被害に巻き込まれている姿も見られました。声かけは一見ささやかなことと思えますが、何度か出会いを重ねるうちに雑談から心を開き、「今ちょっと困ったことがあって」とSOSを求める関係へと発展します。

ぱっぷすでは「こういう選択肢があるよ。やりたいと思ったら一緒にやろう」という姿勢で、本人の自己決定を大切にしながら寄り添うことを重視しています。

「また会えたね」「今日は大丈夫？」といった日常の会話が信頼の入口となり、補導や排除の対象となりやすい若者にとって、安心して話せる大人の存在はかけがえない支えとなっています。

新宿歌舞伎町のセーフゾーン設置の実現

2020年以降、新宿・歌舞伎町のシネシティ広場や大久保公園には居場所を失った10代20代が集まり、犯罪や性的搾取に巻き込まれる危険が高まっていました。ぱっぷすは2023年5月、安心して過ごせて危険を感じたら避難できる「セーフゾーン」（安全地帯）の設置を東京都議会に政策提言。その結果、東京都が再検討を行い、同年「きみまも@歌舞伎町」設置につながりました。

安全かつ無料で立ち寄れる居場所が実現したことで、被害を未然に防ぐ予防的支援のモデルとなり、若者の安心と安全を守ることにつながっています。

拘留中女性のサポート



売春防止法により逮捕・拘留された10代20代の若年女性から要請があれば、拘留所に面会に行き、必要な情報を届けています。それは今後の生活を考える手がかりとなり、拘留中に心身を癒やすきっかけにもなります。ある相談者は「性売買が暴力だった」と気づきを語ってくれました。こうした声を受けとめることが、新しい一歩につながります。同時に、無理をしてきた状況から離れると強い不安に襲われることもあるため、情報提供にとどまらず、安心できる環境を整え、寄り添いながら伴走することを大切にしています。



路上アウトリーチ中のスタッフ

セックスを買えない社会にしていこう！

誰もセックスを買わなければ、性的搾取はすぐ終わる

ホストクラブ規制を含む改正風営法が施行されましたが、依然として多くの女性が歌舞伎町などで性を売らざるを得ない状況に追い込まれています。現行の売春防止法は「性を売る側の勧誘」に罰則を科す仕組みであり、性を買う男性には処罰がありません。

そのため、性を買う需要が売春の構造を支え続け、被害がなくなるのが実情です。

現在の売春防止法の処罰規定について

	売る側	買う側
売買春行為	禁止	禁止
勧誘行為	処罰	なし
誘引行為	処罰	なし

性を売る側のみ処罰、買う側は「おとがめなし」



買春者を処罰していないのは日本だけ

※アメリカは、ほぼすべての州

性を買う側を処罰している国

国名	買う側の処罰
アメリカ※	○
カナダ	○
フランス	○
韓国	○
台湾	○
北欧諸国	○
日本	×

日本では、買春の勧誘や誘引が実効的に取り締まられていないことで「事実上グレーゾーン」となり、**児童買春の温床**にもなっています。

ぱっぷすは「**売春・買春防止法**」への改正を求めています。性を買う側に罰則を設け、逆に性を売らざるを得なかった人には支援を提供する仕組みです。性的搾取の被害を減らせるだけでなく、性感染症や予期せぬ妊娠、自死や貧困の連鎖といった社会的コストを減らし、暴力団や犯罪組織とのつながりを断ち切ることが期待されます。

性的搾取の根本は「**買う需要**」にあります。買う側を処罰、売る側を保護という「**北欧モデル**」は、現在、国際的に広がって潮流になっています。

外国人観光客も10代20代の性を買っている！

2023年以降、諸外国の SNSや動画投稿サイトで「東京は性を買える街」として紹介されたことで、10代20代の日本人女性の性をターゲットにした外国人観光客が東京・歌舞伎町などの繁華街に増えました。

これは、女性の尊厳を踏みにじるだけでなく、国際的にも「東京が性の観光都市化している」と批判を招きかねない深刻な課題です。

オンラインアウトリーチ

2024年度、ぱっぷすは路上に加えてSNSでもアウトリーチを実施しました。X（旧Twitter）で1,042回、その他SNSで137回の情報提供を行い、性的搾取に巻き込まれそうな投稿をしているアカウントには直接メッセージを送り、ひつじカフェなど支援につなげました。

Yahoo!知恵袋では「セクストーション」「性的な写真を送ってしまった」といった匿名相談に対応し、被害防止のきっかけを提供。XやTikTok上の加害アカウント通報や、事業者との協議を通じた改善にも取り組みました。



性感染症対策リーフレット

性感染症・性犯罪・予期せぬ妊娠、これまで別々に語られてきた課題を、「性的搾取」の視点で初めて一本化したリーフレットです。



ダウンロードはこちら

若年層が直面しやすい性感染症、性暴力、予期せぬ妊娠について、従来は個別に扱われてきた課題を「性的搾取」という共通の視点から整理し直したリーフレットをつくりました。

クラミジアや梅毒などの感染症の症状と検査の必要性、同意のない性行為の重大さや法的リスク、避妊や中絶に関わる現実的な負担、そして加害者による「言い訳」を打ち破る知識をわかりやすく解説しています。

さらに、困ったときの相談窓口を掲載。若年層が自分自身を守り、暴力に気づくことができる、これまでにない包括的な啓発ツールです。

ひつじハウス

次の一歩を踏み出すための安全な居場所



556泊の
利用
短期36人
長期9人

ひつじハウスについて

ひつじハウスには短期36人・長期9人、計45人が延べ556泊利用しました。行き場を失った若年女性にとって、安心して眠れる場所は命をつなぐ拠点です。利用者はアウトリーチやひつじカフェからつながった方、他団体から紹介された子などさまざまで、数日の休養から2カ月近い滞在まで状況に応じて支援を行いました。

なかにはストレスや体調不良で限界に達し「とにかく休みたい」と来所するケースもありました。相談員との面談を重ねながら役所や次の居住先につながる子もいれば、ひとまず安心できる環境で休息をとることで新しい生活を考える余力を取り戻す利用者もいます。

突発的な入所や深夜の受け入れにも対応し、長期滞在者と買い物や食事を共にするなど、日常を取り戻す工夫もしています。クリスマスや誕生日を共に祝うことで、心の支えとなることもありました。ご寄付のおかげで「今夜泊まる場所がない」という切実な声に応え、若年女性が次の一歩を踏み出すための安全な居場所を提供できています。

ひつじカフェ・ひつじハウス共通の意義

- どちらも「安全な居場所」として、身体と心を休める機能
- 利用者が搾取や危険な状況から一歩離れ、支援につながる中継地点
- 孤立の解消と信頼関係の構築が、次の生活への橋渡しになる



BBQパーティ



アットホームな手作りごはん

性的搾取の渦中にある女性のサポート

下記のイメージは、ひつじハウスにたどり着く若年女性が抱える困難を「負のスパイラル」として表現したものです。困難は「個別の問題」ではなく、互いに影響し合って悪循環を生む構造的な問題です。

一度スパイラルに入ってしまうと、自力では抜け出すことは困難です。居所・健康・就労・経済のどこかが崩れてしまうと、芋づる式に他の課題も悪化していきます。



困難を抱えてしまうロジック

- 1 居場所（居所）がない**
安定した生活ができず、休養も取れない親が頼れない
- 2 体調悪化・大量服薬・自傷**
就労機会の喪失、死にたい気持ち
- 3 就労できない**
身分証や学歴・職歴・住所がなく、人間関係の困難から、仕事や福祉につながらず就労をあきらめてしまう
- 4 お金がない**
お金の貯め方がわからない
サバイバルのため危険な環境に戻る
- 5 再び居所を失う／心身が不調に**
繰り返しにより、さらなる困難に

まず居所を確保し安心して休める場を提供し、その後の支援につなげる余力を回復します

ひつじハウスのながれ



ひつじハウス利用者のその後

- 1. 安心して休んだあと自立を模索**
数日の休養で心身を立て直し、「自分自身でやってみたい」と退所するケース。
一時的な避難所として利用し、その後は友人や知人宅、アルバイト収入などで生活を再開。
- 2. 公的制度や居住支援へつながる**
 - 相談員の同行により、役所で生活保護・一時保護・障害福祉サービスなどにつながる。
 - 宿泊提供施設や無料低額宿泊所、グループホームに移行し、安定した住まいを確保。
- 3. 医療・心理的支援を受ける**
体調悪化やオーバードーズ（OD）・自傷の背景がある場合、病院につながり、治療やカウンセリングを受けられるようになる。
- 4. 長期的サポートへ進む**
 - 学び直しや就労訓練に挑戦するケースもあり。
 - 他団体の伴走支援に引き継がれることも多い。

公的機関につながったとしても、ぱっぱすはつながり続けます。そのあとも関係性が続きます。

広報・啓発活動

加害も被害も減らし、社会を動かす力へ

今期も多くの広報・啓発活動をしてきました。その一部をご紹介します。

2025年7月17日



金銭セクストーション記者会見

ぱっぷすとヒューマンライツナウ（共催）は「金銭セクストーション」被害の急増を受け、国会議員やメディア向けに緊急記者会見を行い、計45人のメディアが参加されました。

記者会見では、最新の相談件数や事例、そして日本社会の課題と、これから必要な対策について詳しく皆さんへ共有しました。

2024年9月20日



KIFUBARイベント

「新しい贈与論」主催のKIFUBARイベントに登壇しました。KIFUBARは、参加費やドリンク代の一部が寄付となる新しい寄付の形のイベントです。今回はセクストーション

被害の実態についてお話しし、参加者のみなさまに真剣に耳を傾けていただきました。これとは別に、ぱっぷす宛てに170万円のご寄付・ご支援を賜りました。心よりお礼申し上げます。

2025年7月23日



Metaとの協働取材

Metaのオフィスで、高校生の“チャレンジ”を応援する月刊フリーマガジン「ch FILES（シーエイチ・ファイルズ）」の取材を受けました。

セクストーション被害についての取材です。加害の実態や被害を受けた際の対応についてインタビューに答えました。非常に身近な問題として受け止めてくださいました。

2024年2月7日



クローズアップ現代+

NHK「クローズアップ現代+」に出演し、ホストクラブ商法の問題について解説しました。若い女性の犠牲で成り立つビジネスであり、

所有資産を超える支出や借金をさせてまで飲食させる行為は、社会通念上あってはならないものであることを強調しました。

国際連携

国際ネットワークと連携し、課題を可視化・解決へ

諸外国ではデジタル性暴力に特化した法制度や支援の仕組みが進んでいます。こうした経験を学び、日本の制度改善や政策提言に活かします。

2025年7月17日



KCSVRCのスタッフと一緒に

一般社団法人Spring韓国視察団に参加し、韓国の性暴力・デジタル性暴力被害の現状と対策、公訴時効について意見交換を行い、韓国の状況を学びました。ディープフェイクに関する法律や、ジェンダー・

センサビリティに関する政策過程についても学びました。

2025年2月24日



Rights-Con参加

テック企業と人権をテーマに、企業とNGO等が集まり、技術の発展とともに見落とされがちな人権問題について議論でした。テック企業からは「テクノロジーを人権侵害ではなく人権を守るためにどう活用できるか」という

講義があり、NGOとの意見交換も行われました。

2025年5月22日



カリタス青年・コミュニティサービス

香港のカリタス青年・コミュニティサービスの方がぱっぷす事務所にお越しになりました。

ポルノ文化が若者の性意識に与える影響と、その対応策。望まない妊娠を経験した若者へ

のアウトリーチ支援体制・ピア・エデュケーター制度の活用と支援体制について意見交換を行いました。

2024年11月21日



AWID Forum 2024!

AWIDとは、女性の権利をめぐる諸課題に対して、異なる立場・地域・コミュニティの人々が結びつき、支え合い、戦略を話し合う国際会議です。ぱっぷすのスタッフが参加しました。多くの学びを得てエンパワ

メントでき、今後のぱっぷすのネットワーキング・ストラテジーの構築に役立てます。

講演・講師派遣

ぱっぷすでは、相談支援の現場から見てきた課題をもとに、学校・自治体・専門職研修などで講演や講師派遣を行っています。「ホストクラブ商法」や「セクストーション」「AV出演被害」など新たな加害手口について、事例を交えて説明し、被害の予防や早期対応に役立てています。また若年層への啓発では、SNSや人間関係に潜むリスクを伝え、被害を「自己責任」ではなく「構造的課題」と理解できるよう工夫しています。こうした活動を通じ、社会の理解を深め、被害の連鎖を断ち切る基盤づくりを進めています。ぜひお役立てください。



<https://paps.jp/instructor>

実際の講演 2025年6月30日



広島大学において、改正刑法施行から2年を迎えるタイミングで「デジタル性暴力」の実態について講演を行いました。未成年者がSNSを通じて被害にあう

ケースが後を絶たない現状を共有し、子どもや保護者が知っておくべきポイントや被害を防ぐための視点について伝えました。

講演・講師派遣テーマ

学校向け（生徒対象）

SNSの危険性や性被害防止、性的同意の大切さについて、若者に分かりやすく伝える講演。

教職員研修

「ネットを契機とする性被害防止」をテーマに、学校現場での予防策や対応方法を共有。

社会的課題の理解

「SNS性犯罪・デジタル性暴力・性的搾取の現状と課題」を具体的事例を交えて解説。

人材育成

「若年女性相談支援員養成基礎講座」を実施し、相談支援に携わる人材を育成。

企業・組織内研修

- 「セクシュアルハラスメントや性的同意」に関する研修を行い、職場での理解促進と防止策を提案。
- ボランティア・職員向けに「PSEA研修（性的搾取と虐待から相談者を守るための研修）」を実施。

ぱっぷすの関わった書籍

NEW



SNSと性被害
理解と効果的な支援のために
誠信書房

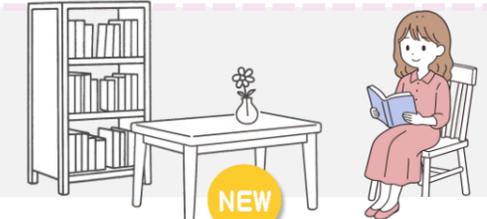
第2章「セクストーションの性被害の実態」を担当。相談支援の現場で見てきたセクストーション被害の実態と対策について説明しています。

NEW



待ったなしの女性支援
女性支援新法で何が変わるのか
女も男も No143 労働教育センター

「デジタル性暴力・性的搾取をなくすために」の章を執筆。被害が低年齢化・先鋭化している現状について説明しています。



NEW



加害者・被害者・傍観者にならないために
ポプラ社

デジタル性暴力被害についてヒアリングを受け助言しました。性暴力の問題について10代向け方に向けて加害者・被害者・傍観者にならないために詳しく解説されています。



ポルノ被害の声を聞く
デジタル性暴力と#MeToo 岩波書店

日本社会はエロや性的コンテンツに寛容であり、その中でAV出演被害訴訟は被害の低年齢化・深刻化を浮き彫りにしました。被害者の回復への声と相談員の声が重なり、これまで埋もれてきた被害が掘り起こされています。

ぱっぷすの取り組む課題と対策

児童ポルノ根絶の法整備

顔や身体の一部が隠れている映像、画像加工で印象が変わる映像などは現行法で立証困難。国際的には「CSAM（児童性虐待物）」と呼ばれバーチャルや生成物も規制対象にしているが、日本は実在する児童のみを対象に限定。

対策 児童ポルノ禁止法は実在児童に限定しているため、加工や匿名化映像は処罰困難。国際的な「CSAM」基準との乖離が課題であり、今後の法整備が不可欠。

AV出演被害防止救済法

AV出演後であっても契約を取り消せる強力な権利保護法がある一方、業界の反発により規制緩和や制度後退の動きが見られる。

対策 被害の実態を示しながら、1カ月・4ヵ月ルールの罰則化、忘れられる権利の創設、性交を伴う撮影契約の無効化を進める。

売春防止法の見直しと買春規制

売春防止法は「売る側のみ処罰」という構造が残り、被害者保護よりも処罰に偏っている。

対策 路上買春の勧誘を処罰する「売春・買春防止法」への改正を提案。将来的には買春を処罰対象とするノルディックモデルを導入し、搾取される側の非犯罪化と保護を強化する。

犯罪収益の没収制度の不備

国連「人身取引議定書」や欧州諸国の法制度では、性的搾取は人身取引とされ、得られた利益は没収の対象。

対策 人身取引の定義を欧米に合わせる。AV出演被害を含む性的搾取犯罪収益の没収を対象に含める法改正。没収資金を被害者支援や削除費用補助に回す制度の創設。国際基準に沿った「被害者中心の司法」への転換していくことを目指す。

ホストクラブ・地下アイドル商法

SNSやアプリを駆使した勧誘。アフターや同伴を通じた二次被害。「バー」「カフェ」などと称して営業。不透明な金銭取引。支援体制の不足。摘発・立証の難しさ。経済的困窮や孤立した若年女性がターゲットとなりやすく、借金や依存関係から抜け出しにくい（地下アイドル業界では、アイドル活動を通じた過大な接触イベントや金銭要求、性的関係の強要など、性的搾取の温床のひとつとなっている）。

対策 悪質ホスト・地下アイドルに対しては、反社会的勢力指定制度などを設け、契約（売掛金契約、賃貸借契約、雇用契約など）は「無効とみなす制度」や活動を阻止する施策。地下アイドルに対しては風営法の規制下に置く。

マネタイジング・ミソジニー（収益化される女性蔑視）

性的動画だけではなく、女性蔑視・女性支援団体への誹謗中傷動画までが収益化され、性的搾取や被害拡大を助長する構造が放置。

対策 有害・違法コンテンツの収益化を禁止し、プラットフォームに対し削除義務と収益剥奪の制度を法的に整備。

新たな性的搾取

「金銭セクストーション」は若年男性を中心にSNSやビデオ通話で誘導され、録画をもとに脅迫される手口が増。2024年度だけで1,822件の新規相談。「裸ローン」は性的画像や動画を担保に貸し付けを装い、返済後も追加の画像や性的行為を強要する手口。現行法では複数の法律を組み合わせるしかなく包括的な被害保護が不十分。

対策 加害アカウントの迅速な削除や送金先の凍結を国際連携で徹底。性的画像を担保にした契約を無効と明文化し、性的搾取を目的とする貸し付け行為を包括的に禁止・処罰する新たな法制度の整備。

生成AIによる性被害

ディープフェイクポルノの深刻化。現行法の名誉毀損罪では、画像が元被害者のものであるか同定が困難、また個人情報と共に拡散されなければ適用できない限界。

対策 ディープフェイクポルノ被害に対応するため、名誉毀損ではなく「同意のない性的生成物の作成・拡散」を直接処罰する新たな救済策が必要。

エイジゲート（年齢制限）

アダルトサイトの年齢確認が形骸化し、子どもでも容易に無制限アクセスできる。小中学生から接触し、性的搾取を正当化するゆがんだ認知を植え付ける。

対策 実効性ある年齢認証（本人確認・マイナンバー連携など）を法的に義務化。違法・有害コンテンツの削除義務と透明性報告をプラットフォームに課す。

SNS広告とアルゴリズム

SNSで過激な性的コンテンツやホストクラブ・性風俗広告が表示により10代20代の若年層が狙われている。職業安定法や売春防止法の適用をすり抜けるケース。捜査・摘発の困難さがある。

対策 性的広告表示制限。特定電気通信設備による性的搾取型求人への罰則化。削除義務・透明性報告の明確化。違法有害業務斡旋を専門的に監視・摘発する体制の拡充。

アドトラック（高収入広告トラック）の対策

東京都条例で2024年6月にアドトラック規制が強化。しかし現在も走行し監視・摘発体制が不十分。性産業の高収入をうたうアダルト求人広告は、10代20代の若年女性を狙い性的搾取に誘引している。また、生活困窮層の脆弱性を悪用している。

対策 違反業者への厳罰化により被害者を保護する。条例では限界のため、国レベルで立法化し、アダルト求人広告規制を全国一律で適用・強化する。

未成年者の深夜保護と法的課題

NPOが未成年者を深夜に保護すると「誘拐」と見なされる懸念があり、支援活動が萎縮している。深夜に被害のリスクが高まるにもかかわらず、居場所が23時以降開設しづらく、未成年が行き場を失っている。

対策 NPO等が未成年者を一時保護できる法的根拠を整備し、児童相談所や自治体との連携枠組みを制度化することで、安心して支援を行えるようにする。深夜帯～早朝も安心して利用できるセーフゾーンの設置も常設化していく。

買春加害者と養育義務

買春者との間で子が生まれた場合、女性は養育の負担を一方的に背負わされる。たとえDNA鑑定で父子関係が証明されても裁判を経なければ認知は成立せず、父親は事実上「認知を拒否」でき、養育費不払いも横行。

対策 米国のようにDNA鑑定で父子関係が確定すれば自動的に扶養義務が発生し、養育費不払いには刑事罰を科す仕組みを導入する。



制度を動かす、被害を減らすために

この10カ年計画は、ぱっぷすの活動を「現場支援」「制度改革」「社会変革」という3つの柱で貫くロードマップです。単なる理想像ではなく、現場で寄せられる年3,000件以上の新規相談や、アウトリーチ・ひつじカフェ・ハウスで出会う10代20代の声を基盤にしています。

1.現場支援の積み重ね

路上やSNSで孤立した若者に声をかけ、安心できる居場所や相談につながります。性的画像の削除や法的支援など、一人ひとりの「いま」を守る活動を続け、命をつなぎとめ、その蓄積によって課題が可視化されます。

2.制度改革への接続

現場で見えた課題は、そのまま政策提言につながります。たとえば「性的姿勢撮影罪」や「AV出演被害防止法」のように、すでに実現した法改正は現場の声が出発点でした。今後はデジタル性暴力や「忘れられる権利」の法制化へと広がります。

3.社会変革とビジョン

最終的にめざすのは「ノルディックモデル」の導入です。これは「性を売る側を非犯罪化し保護する一方で、買う側を処罰する」制度です。性的搾取を支える「買う需要」を断ち切り、日本の負の歴史の中で繰り返されてきた構造的な人権侵害を終わらせることを目指します。この図は、単なる未来予想ではなく、**現場から積み上げた課題解決が、制度を変え、社会を変えるまでの道筋**です。

ご寄付でみなさまと一緒に、私たちの世代で性的搾取に終止符を打ちませんか？

アドボカシー活動（政策提言）



2024年5月22日
武見敬三 厚生労働大臣*と宮崎政久 厚生労働副大臣*との面会

ホストクラブ商法の被害実態の説明のために武見敬三厚生労働大臣と面会しました。大臣は「夢を持つべき若い世代に深刻なダメージを与える問題であり、解決に向けて関係省庁と連携して取り組みたい」と発言しました。



2025年3月13日
三原じゅん子 女性活躍担当大臣・内閣府特命担当大臣*（男女共同参画）との面会

性的搾取の被害実態について説明するため、三原じゅん子大臣と面会し、AV出演被害防止・救済法の現状と課題について話し合いました。

ぱっぷすが所属する「刑法改正市民プロジェクト」の政策提言



2025年1月10日
鈴木馨祐法務大臣*との面会



2024年9月4日
性暴力のない社会の実現を目指す議員連盟の国会議員のみなさまと

*当時の職位です。

科目	金額 (単位:円)	
	前期 (2023年度)	今期 (2024年度)
経常収益		
受取会費	7,000	20,000
受取寄附金	16,419,751	6,541,763
受取助成金等	29,939,805	61,282,420
事業収益	2,497,511	3,178,328
その他の収益	1,150,734	1,500,505
経常収支合計	50,014,801	72,523,016
経常費用		
(1)事業費		
給料手当	50,388,524	33,986,673
福利厚生費	12,992	83,437
扶助費	112,785	281,325
食糧費	1,150,159	1,348,229
業務委託費	4,986,796	6,121,771
謝金	184,539	653,350
印刷製本費	146,573	99,408
会議費	242,234	144,872
旅費交通費	1,109,150	510,421
通信運搬費	1,295,653	1,783,037
消耗品費	3,661,329	1,945,738
水道光熱費	848,033	1,007,128
地代家賃	4,557,600	4,689,600
研修費	80,720	133,822
その他	1,883,446	1,230,524
事業費合計	70,660,533	54,019,335
(2)管理費		
給料手当	1,180,003	3,237,866
福利厚生費	12,276	34,787
その他	1,988,850	1,149,878
管理費合計	3,181,129	4,422,531
経常費用合計	53,569,653	58,441,866
当期経常増減額	-23,826,861	14,081,150
法人税等	70,000	70,000
前期繰越正味財産額	27,454,040	3,557,179
次期繰越正味財産額	3,557,179	17,568,329

受取寄附金

前期は、SNS上での誹謗中傷などにより事業継続が危ぶまれたため、大々的に寄付キャンペーン実施したことで1,641万円集まりました。今期は寄付キャンペーンが実施できなかったこともあり減少となりました。それでも263人(1,164件)からのご支援をいただきました。

受取助成金

前期は東京都補助金が事業年度をまたいで支払われたことから減収にみえますが、実際は4,102万円の補助を受けました。今期は、前期の東京都補助金の支払い+今期後半に海外の団体からの助成を受けられ、増加しました。

給与手当

前期は事業継続が危ぶまれたことから今期初めに人員整理・勤務時間の削減・勤務体系の見直しを行いました。今期後半から、海外の助成を受けることができ、財政健全化を実現したことから、新たにスタッフを採用しています。経理スタッフの件数を管理部門に按分しました。

食糧費・扶助費

主に、ひつじカフェ、ひつじハウスでの10代20代で日常生活が困難な状況になっている方に対し食事等・医療を提供するための費用です。

業務委託費

勤務体系の見直し雇用契約を委託契約に変更したスタッフがいたことで委託費が増加。その他は、弁護士費用・税理士・スーパーバイザー・寮長の費用です。

印刷製本費・会議費・旅費交通費

主に相談支援にかかる経費です。

消耗品費

広く物品寄付を募り、消耗品費を圧縮しました。

通信運搬費・水道光熱費・地代家賃

主に相談支援にかかわる4つの拠点(事務所・ひつじカフェ、ひつじハウス)の固定費です。その他としてインターネット電話代・サーバー維持費などが含まれます。

給与手当

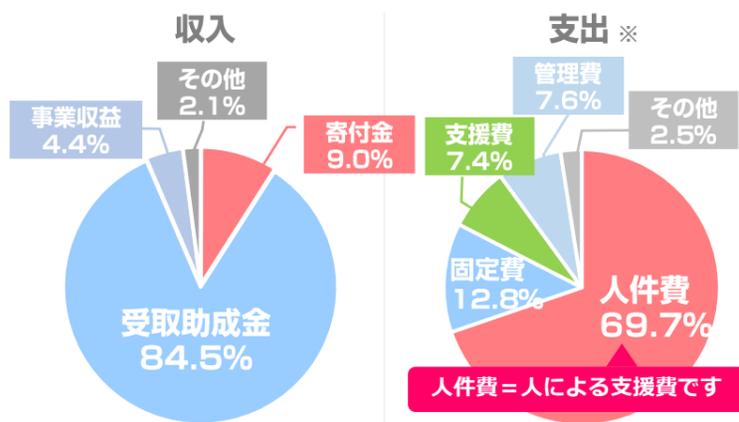
経理部門スタッフを事業費から管理費に移動したため上昇しています。

当期経常増減額

東京都補助金が事業年度をまたいで支払われたことから、前期はマイナスとなりました。今期以降はこの方針が標準化したため、収支は安定すると考えられます。

ぱっぷすの活動は、現在その多くを助成金に支えられています。しかし助成金には用途の制約があり、政策提言や社会を変えるための発信活動には充てられません。こうした取り組みを進めるためには、みなさまからのご寄付が欠かせません。

また、支出の約7割は人件費です。相談や伴走支援といった「人による支援」が活動の中心であり、ここに資源を注ぐことは不可欠です。人件費は単なる経費ではなく、みなさまのお気持ちが支援者を支え、被害に苦しむ方の力となっている証しです。ご寄付は、現場の支援を持続させると同時に、助成金ではまかなえない社会変革の原動力となります。



※支出の内訳：人件費は、給与・業務委託・謝金です。固定費は、通信運搬費、水道光熱費、地代家賃です。支援費は、扶助費、食糧費、印刷製本費、会議費、旅費交通費、消耗品費です。管理費は経理スタッフ・事務局運営に係る費用です。その他は、福利厚生費・研修費など直接相談者に関わらない費用です。管理費以外は、相談支援事業実施に必要な費用です。



東京都提出書類
財務諸表などは
QRコードから

私はかつて性産業に身を置き「これは仕事だ」と言い聞かせていました。けれども現場で暴力を受け、恐怖の中で相手の要求に応じながら「仕事だからしかたない」と思うことでしか、自分を守れなかったのです。「仕事」と考えることは痛みを軽減し、考える力を放棄してしまうある意味で魔法の言葉でした。

相談者も「自分で選んだ」と語られます。しかし、それは本当の選択ではなく、選択肢を奪われた中での言葉です。被害だと説明するより「お金のため」と言ったほうが、余計な背景を語らずにすむ。その気持ちは、私自身にもありました。

私は性産業にいたときに、客から腹を殴られたり、首を絞められたりすることが繰り返されました。意識が遠のく中、「どうやったら穏便に開放されるだろう」と必死に考え、相手の要求に積極的に応じることでダメージを最小限に抑えようとする状況に追い込まれました。今日生まれてくる子どもたちに、同じ「選択」を残してしまっていないだろうか。そこから解放されたあと、心に突きつけられた核心がありました。

いまでも多くの若者が性的搾取に巻き込まれています。被害は低年齢化し、デジタル技術による拡散や脅迫は日々深刻さを増しています。制度や法律も追いつかず、削除に応じない悪質なサイトも存在しています。現場の支援は常に人手と資金が不足しています。

私たちは「10カ年計画」を掲げています。被害者を支援しながら制度改革につなげ、最終的には「ノルディックモデル」を日本に根づかせ、性を買う行為を規制し、売られる側を守る社会を実現したいと考えています。それは、未来の子どもたちが安心して夢を描ける社会をつくることです。

この大きな変化は、みなさま一人ひとりのご支援によって実現できます。どうか共に歩んでください。

ぱっぷす理事長 金尻カズナ



みなさまのご支援は、10年後の社会を形づくる礎です。未来の子どもたちが「性的搾取のない社会」で生きられるよう、共に歩み続けましょう。

ぱっぷすスタッフ活動中のようす

スタッフのセキュリティーの観点から顔にぼかしをかけています。



アウトリーチ実施中



アウトリーチで現在声かけ中



事務所の様子



ひつじカフェイベントの準備中

ご寄付者の声

私はこれまでAV出演被害や、だまし討ちのように女性が傷つけられる姿に心を痛めてきました。ぱっぷすが、被害にあった女性の声をていねいに受けとめ、共に歩んでいる姿勢に深く共感し、支援を続けています。

寄付者として期待しているのは、ひとりでも多くの方が「もう自分を責めなくていい」と安心できるようになることです。また、いただいた寄付が相談支援や緊急対応、被害画像の削除要請など、当事者の命と未来を守るために大切にに使われてほしいと願っています。

今はデジタル社会となり、新しい形の被害が次々と生まれています。だからこそ、ぱっぷすが現場で寄り添い続けることに、これまで以上に価値があると感じています。

「支援の輪をもっと広げたい」その思いから、これからも応援を続けます。

医師 小林高義 様



「ご支援はこちら」 <https://paps.jp/supporter>



編集後記

この活動報告書は、スタッフみんなでアイデアを出しあい、印刷以外のレイアウトやデザインをすべて内製しました。なぜ内製にこだわるのかというと、外注では温度感が損なわれ、私たちの思いが十分に伝わらないからです。本年度からはスタッフであれば誰でも編集できるようにPower Pointで制作し、まさに「パワポの限界」に挑戦しました！イラストの多くはOpenAIのSoraでラフを作成し、統一感を出すための仕上げはAdobe Photoshopで修正しました。もっとも大変だったのは配色で、スタッフの意見が分かれ、決定までに時間を要しました。

この1年を振り返ると、本当に多くの出来事があり、書きたいことも膨大で、1冊の本になるほどでした。制作の合間も、相談支援の現場では毎日がドラマのように展開し、嵐のように駆け抜けていきました。最後までお読みいただき、ありがとうございます。ぜひ裏表紙までご覧ください。